



今度はマドリードの北にあるチャマルティン発の電車でセゴビアに向かいました。約1時間50分。北に向かう車窓には、南のアンダルシアとは違った、いわゆるヨーロッパ風の村・町並みが映ってきます。セゴビアは、海拔約1000mの高地に位置する城壁に囲まれた街。

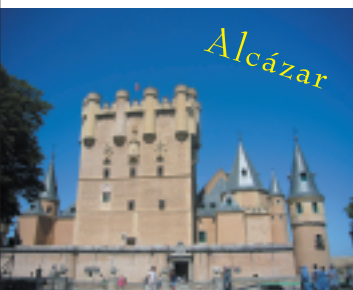
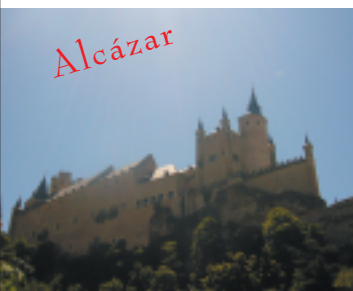
スペイン各地でのエピソード②

ローマ水道橋 圧倒的な重量感

15世紀にはカスティリーヤ王国の中心地として、重要な役割を担っていました。歴史的に貴重な建築物が多く、特にローマ水道橋は旧市街とともに世界遺産に登録されています。ヨーロッパで最も原型に近い姿で

保存されている水道橋。全長728m。地上から一番高いところは28.9mもあります。現在、水は流れていませんが、20世紀半ばまで、セゴビアの北約15kmのリオフリオ山脈のアセバダ川から水を引いてきました。セメントなどを一切使わず、切り出した花崗岩をたくみに積み上げていく方法で、紀元前1〜2世紀にローマ人によって造られた。ローマ時代の建築物の中でも、芸術的にも技術的にも最も優れているものの一つとされています。

アソグホ広場から橋を見上げると圧倒的な重量感！ 基底部の橋げたとなる柱の花崗岩は、どれも数トンから数十トンはあるそうです。アーチ型に伸びた橋を築く花崗岩も何百キロから数トンはあると思われます。こんな重い石を、形を合わすためにどのように切り、削り、組み合わせていったのか。橋のアーチ部分はお互いの石の圧力で落下しないように力学的になっているのだろうが、どうやって持ち上げ、組み合わせたのか。どのくらいの水がこの橋の上を流れ、どのように使われていたのだろうかとか、壮大な歴史遺産を前に、さまざまな感慨が湧いてきます。同行のM氏は機敏にあちこちを回りながら、カメラとビデオ撮影に熱中しています。実は、氏は大阪市の元消防士でした。「今でも、2・3階の家の屋根の上など、平気で歩き渡るんですヨ」と言っていました。そこで私は「まさか、この歴史的な水道橋の上を歩き渡ったりはしないでしょうね」と冗談の声をかけたものでした。



アルカサルで中学生たちと友情交歓

セゴビアの町を挟んで水道橋とは反対側に、アルカサル(城塞)があります。外観が壮麗優雅で目を引き付け、ディズニー映画「白雪姫」の城のモデルにもなっています。狭く暗い、螺旋状の階段を上り、塔の上に行ってみました。広い展望台には先着の多くの観光客に混ざって、研修旅行の中学生たちで賑わっていました。スペインの地方からのようです。東洋人の我々が近づくと、興味津津で何人かが声をかけてきました。

「どこの国からきたの?」

「ハボンだよ。ハボンでどこにあるか知ってるかい?」

「うん、ほら、ソニーとかトヨタとかある国じゃないの?」

「オレ、オレ、オレに言わせろ。ほら、今サッカーをやってるじゃないか! お隣りのコレア(韓国)と一緒にさ」

数人から十数人へと一挙に子供たちの輪は広がり、それぞれが自分の思っていることを叫んできます。目はキラキラと輝いていてにこりありません。こちらもつい楽しくなって、子供たちとの話に乗っていきました。しばらくやりとりが弾んだところで、「じゃあ、一緒に記念写真を撮ろうか」と声をかけると、男の子も女の子も、我先にと、私たちの周りに集まってきたのです。引率の教師も、ニコニコと目を細めながらその光景を見えています。歴史の舞台で思わぬ交歓となったのでした。

先に地上に下りた私たちに、展望台から声をかけ、手を振っているグループがありました。見上げると、さきほどの中学生たちでした。私たちも下から大きく手を振り応えました。思わぬ出会いで芽生えた“小さな友情”——なんと旅を温かく彩ってくれるものなのではないでしょうか!